

第57番 栄福寺

●愛媛県今治市玉川町八幡甲200
☎0898-55-2432
●宿坊／なし



第58番 仙遊寺

●愛媛県今治市玉川町別所甲483
☎0898-55-2141
●宿坊／あり(要予約)



沿線の見どころ



今治市玉川近代美術館

今治市(旧玉川町)出身の故徳生忠常氏が全資金を提供し「心温まる名画の美術館」として昭和61年に設立、ふるさとに寄贈した。明治以降の日本近代洋画の大家・黒田清輝、藤島武二や、近代美術史を彩る中村彝(つね)、郷土出身の野間仁根(ひとね)などのほか、海外作家のピカソ、ルオー、ユトリロらの作品を所蔵。

☒ 愛媛県今治市玉川町大野甲86-4

栄福寺から西へ約3.8Km

☎ 0898-55-2738

☒ 9:00～17:00

☒ 月曜(祝日の場合は原則翌日振替)、

12/29～1/3

☒ 一般500円



境内の見どころ



大師堂の干支

大師堂はかつてこの寺が山頂にあった時の建物を移築したもの。建物の外回りにぐるりと施された十二支の干支の彫刻は、一見の価値あり。正面には玉をくわえた龍が、睨みつけるようにこちらを見ており、側面には虎などが彫られている。羊だけ姿が見えないが、実は隠し彫りされているという伝説がある。



境内の見どころ



お願い地藏尊

境内の片隅に建つお願い地藏尊は、願いごとを叶えてくれるといわれている。ふっくらとしたかわいらしいお顔をしていますが、「見る度に表情が違う」と地元の人たちから信仰を集めている。また、栄福寺には江戸中期のお遍路さんの納経帳が残されており、四国遍路の貴重な資料として注目されている。



緑に抱かれ、石清水八幡宮への参道を背にして建つ本堂

第57番

府頭山 栄福寺

ふとうさん むりょうじゅいん えいふくじ

海の中から出現した御本尊

歴史・全体像

開基は弘法大師で、嵯峨天皇の勅願によって弘仁年間(810～824)に開かれた。周辺で海難事故が相次いでいることを知った大師は、府頭山の山頂で海神供養の護摩供を厳修。その満願の日に、海の中から阿弥陀如来が出現。この阿弥陀如来を本尊として堂宇を創建したという。

貞観元年(859)には、大安寺の行教上人が暴風雨に遭遇し、この地に漂着。府頭山が男山に似ていることに気づき、また阿弥陀如来が八幡大菩薩の本地仏であることにも縁を感じて、境内に社殿を建立。神仏習合の八幡宮を創建した。その後、明治元年の神仏分離令によって寺は現在の地に移転した。

御詠歌／この世には弓矢を守る八幡
なりらいせは人をすくみだぶつ
本尊／阿弥陀如来
真言／おん あみりた ていせい から
うん
宗派／高野山真言宗
開基／弘法大師

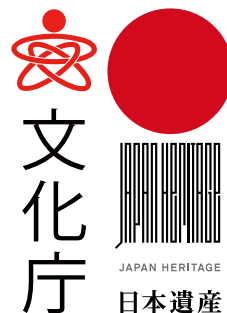


本堂と廻廊で結ばれている大師堂

境内

駐車場から延びる参道の先には石清水八幡宮があり、本堂は八幡宮への参道を背にした場所に建っている。本堂には一寸法師、大師堂には十二支の彫刻が施されている。

古社の趣がある本堂の廻廊には、霊験によって難病が平癒した少年遍路が奉納したという箱車が置かれている。昭和8年(1933)、足が不自由なため箱車で四国巡礼していた少年が、この寺を訪れた際に不注意で転倒。しかしその時、それまで立たなかった足腰がすっかり治っていたことから、箱車を奉納してお遍路を続けたという。この話にあやかってか、足腰守りの寺としても知られ、病氣平癒の祈願をする人も多い。



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



